第４回磯子区地域福祉保健計画策定委員会　議事録

日時：平成１７年８月３日（水）18：30～20：30
場所：磯子区役所　702 号会議室

1.今までの経過報告

1-1 区社会福祉協議会　部会などのヒヤリング

・地域福祉活動計画（ふれあいコスモスプラン）第２次実施計画は 17 年度で終了。新たな地域福祉活動計画の策定を地域福祉保健計画と一体的に進めている。
・地域福祉保健計画のグループインタビューを受けて、ボランティア部会、地域福祉部会など部会で、障害者グループなどにヒヤリング、アンケートなどを行っている。
・40 人が参加。８月上旬までにまとめる予定。

1-2 区民会議との意見交換

・今後、区民会議福祉分科会への説明などを通してリンクしていく。
・共通の課題を認識。
・地区別検討会データの共有。その生の声のうち、福祉計画で落ちていくものを区民会議で受け止める。
・区民会議第１６期は１７年度１８年度の任期であり、福祉計画の策定が終わっても続いていく。計画の実行部隊として位置付けたい。
・区民会議の運営会議２５名に地域福祉保健計画の最新の動きの資料を配布。次の企画部会で検討する予定。

1-3 ケアプラザ職員・区職員へのヒヤリング（資料参照）

・声なき声をどう集めるか。聞こえにくい声についてインタビューを行った。
・地域で見守ること及び支える側（ケアプラなど）が出向くことの必要性があげられた。

1-4 第４回分科会報告（資料参照）

1-5 子育て支援連絡会へのインタビュー

・世代間の断絶、家庭崩壊、短絡的人間関係などが問題点としてあげられた。
・学童保育の後の時間外のサポートの必要性。
・若いニートは３分粘ると会話が可能である。就労支援の取り組みが必要。
・父子家庭の食事サービス、障害児の短期入所なども課題。
・虐待予防について計画に入れてほしい。

1-6 地域別検討会（資料参照）

・地域別検討会でもれたテーマについて、福祉計画で扱えないものは担当へつなぐ。（例：専門的な防災・防犯の取組み）

2.計画骨子についての意見交換

「社会参加」という言葉をいれてほしい

・自治会等への参加が少ないように、都会では社会参加への意識が低い。

・健康・いきがいは「社会参加」にある。人のために生きるという理念は、福祉の基本である。「社会参加」という言葉を入れ行動目標にしたい。

⇒「参加」は受身的。主体的な「私のこと」として出発する表現にしている。

2-1 計画の理念

①理念 1「一人一人がそのひとらしく暮らせるまち」

・これは本当に「福祉」の理念と言えるのか。引きこもりやニートなどの問題が「それぞれの地域で、そのひとらしく」てよいという考え方では福祉が進まないのではないか。

・地域など関係ないという人をそのままにすると、理念の 2、3 につながらない。

・障害者の「社会復帰」を例にすると、なぜ障害者がそんな努力をしなくてはいけないのか、ふつうの人と同じように生きなくてもいい。努力することもしないことも本人が選べる自己決定ができるということを主張する人もいる。

・引きこもりから抜け出した人が、「自分にとって引きこもりが必要であった」と言っている。「引きこもり」を否定するというのではなく、地域がそういうことがあるということを認めることが必要なのでは。

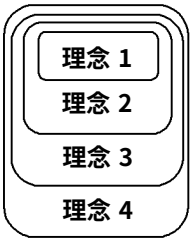
・「そのひとらしく」のとらえ方。ニートをそのまま置くのではなく、ニートのうしろにあるその人らしいことが地域に受け入れられること、そのひとらしさが支えられること。

・歩けない人に「歩け」と言わない。出たがらない人に「来い」と言わない。支える。

⇒社会福祉法第４条に基づいている。画一的であった福祉の歴史が変る。一部の人たちが持っているのではなく皆が持っている「弱さ」。他人事であれば「してあげる」になるが、まず自分のこととして、一人一人を大事にするところから出発する。一人一人ちがっていてもいい。一人ひとりから出発して、一人では生きられない、そのためにコミュニケーションや「お互い」が助け合うことにつながる。さらに、制度（行政）でバックアップし、また協働のしくみにつながる。

理念＝区民と行政が共有したい価値観

・理念の図式



個から出発し、助け合う
しくみがつつむ

・理念 1 の表現は誤解を生むので、1 と 3 を合わせて「その人らしく、安心して心地よく・・・」とすればどうか。

・表現として、暮らす側の主体性のみでなく、受け入れる側が大事なのでは。「その人らしさを

活かせる」「尊重される」とすれば、取り巻く周りの問題となる。

・「ひとり」のことと、地域など「周り」のことを同じ文面で表現しないほうがよい。別のこととして考える。「わたし」があって「他者」との関係ができる。

・「暮らせる」という表現は、他動詞であり、他者の介入、他者が認めていることを含む表現であり趣旨に合っているのでは。「暮らす」であれば勝手に生きている意味になるが。

・「ふつうに暮らせる」（ノーマライゼーション）という表現ではどうか。

・「ひとりひとり」を「わたし」にすれば誤解されないのでは。

②理念４「区民・事業者・行政が協働してつくるまち」

・お役所的表現である。「人ごと」と受け取られる。主人公は区民なのだから「わたしたちが変える　いそごのまち」でよい。「わたしたち」とは区民、事業者、関わりのある機関を指す。

・計画の作り手、主体である区民、団体を「わたしたち」で表したい。できるだけ皆さんの力を集めて、「わたし」ならこれができるということを集めて、「わたしたち」の計画としたい。皆が「わたし」のこととして認識してほしい。

・「わたし」という表現にはインパクトがある。「わたしたち」よりいい。

・「私たちが変える」はよいと思う。

・「わたしたち」「わたし」という表現は、関心のない人が読んで、「かってに」と引いてしまう。委員の皆さんはよいが。

・参加してつくることは、これからの行動も重要であるがそれだけでなく、意見が反映されること、多くの声の反映が重要。

2-2 取組み

①取組みは誰がやるのか　計画の管理をどこでするのか

・具体的な提案を計画に盛り込むことが大切。現在の文言は例示。

・Ｖを掘り下げるか、VIをつくるか。

・例えば、具体的な行動のきっかけをつくるのは社協で行い、次からは、チームリーダー的な人を中心にネットワークを進めるという提案など、誰が、どこで、また財源は、という議論を深める。

・実践の主体はだれか。また、金は？委員会が進めるのか。地域の長が受け止めてできるのか。５W1Hを決めること。ＰＤＳをどうしていくかが一番大切。絵に描いた餅にしない。

・最初は自治会単位で取り組むのでは。

・地域別で取り組むことが重いものもある。

⇒具体的行動目標と役割分担を議論していく。

・個人の役割がある。それぞれ各人が特技を生かして行動計画を考える。現在何が問題なのか、データベースで示す。

・「取組み」をしっかり出していきたい。具体的に区民が参加できるものを示す。

・いいことを言っているが実際に何もできないにしない。そのために委員がまず始めてみる。

・それぞれの小さい地域ではできないことを、どうすればよいかを取組みとして話し合う。取組んで地域に還す。地域の取組みと重なり合う。

②もう一歩具体的な提案が必要

つながりたいと思っている人へのきっかけとして社協が始めは動くとか。

③取り組みの５Ｗ１Ｈをはっきりさせる。

誰が進めるのか、対象は？財源をどうするか。

最終的に自治会単位の取り組みとなるかもしれない。

2-3 目標

・理念とのつながり、方針とのつながりを考慮して順序を変えたほうがよい。

・目標の 1 と 2 の入れ替え。

・計画全体として、横軸にも意味をもたせわかりやすく。

3.今後の策定スケジュール

・第５回策定委員会を１０月の始めに開催予定。素案を提示する。

・「Ｖ.取組み」の具体化を検討する場を設けていく。

・「行動計画」「アクションプラン」検討会として１０月まで３回開く予定。